

■工夫をしながら、島の春を告げる ～ 鬼太鼓 ～

新型コロナウイルスの感染者が落ち着きをみせてきていたものの、4月15日の春まつり前に、市内での感染者数が増加したことを受けて残念ながら中止した保存会もありました。

コロナの終息が見えない中、今年も島内の各保存会で例祭の実施について話し合いが続けられてきました。佐渡でも感染が拡大したこともあり、鬼太鼓の中止を決断した団体も少なくありませんでしたが、「こんな時期だからこそ」という思いを込めて、感染対策を徹底しながら実施した団体も昨年度と比べ増加傾向にありました。そのうちの1団体をご紹介します。

鬼太鼓の実施状況(R4.5.6現在)

	2020	2021
通常実施	11	7
縮小	26	31
中止	17	16

※財団で確認済みの件数

【4/15 佐和田地区窪田集落の鬼太鼓】

ここ2年は神社への奉納のみだったそうですが、今年は規模を縮小して開催となりました。消毒やマスクの着用を徹底しながら一部場所でのみ鬼太鼓が舞われ、小雨の中ではありましたが、地域の方も集まり久しぶりのまつりを喜んでいました。また、今回使用されている太鼓は地域の方々に寄付をいただいて新調したものだそうで、窪田青年団の団長は「お披露目の意味や感謝の気持ちを込めて鬼太鼓を行いたい」と話していました。



■ 高千中学生が情報発信を学ぶ！

4月28日(木)、佐渡市立高千中学校の総合的な学習の時間で発信活動の授業を行いました。

高千中学校では全校生徒が文弥人形に取り組んでおり、今年度はもっと多くの人たちに興味・関心をもってもらうと、ポスターをはじめパンフレットやSNS等を活用していくことになりました。

文化財団からは、佐渡の文化・芸能情報を発信する際の対象者や各媒体の特徴などをお話し、生徒たちは文化祭に向けてどんな方法で情報発信をしたいかを話し合っていました。今後は、この日挙げた提案を班に分かれて実行していくそうです。



▲授業の様子

■ 「佐渡元おけさハイヤ研究会」の撮影

4月30日(土)、「佐渡元おけさハイヤ研究会」の撮影会が行われました。

佐渡元おけさハイヤ研究会は、「第4回佐渡民謡の祝祭でみた“牛深ハイヤ”に刺激を受けた」という杉山民友会、金子芳延会、華月湖清美会、七浦民謡研究会の4団体が集まり結成した合同チームです。

本来であれば熊本県天草市で行われる「牛深ハイヤ祭り」に出演する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため参加が叶わず、せっかくならば練習してきた稽古の成果を記録に残そうと今回の撮影会が企画されたそうです。

構成内容は「佐渡おけさの元唄であるとされる牛深ハイヤと、佐渡おけさや両津甚句などの佐渡民謡を合せたメドレー」となっており、明るくりズミカルな舞台を演出していました。

メンバーの1人で、現在、杉山民友会で会長を務めている佐藤さんは、「各団体での活動にとどまらず、みんなが集まる今回のような取り組みも大切だと思います。その中で、各団体オリジナルの曲も大事にしながら、いろいろな演者が集まって交流できると楽しいと思います。そしていろいろな人たちに興味を持ってもらえたら嬉しいです。」とおっしゃっていました。

つついりリズムに乗ってしまう牛深ハイヤですが、今回記録した動画は、後日、民謡団体のYouTubeチャンネルでアップする予定とのことです。



佐渡の文化・芸能を支援する、賛助会員を募集しています!!

佐渡文化財団では、研究・調査、文化・芸能の普及活動等をご支援いただける賛助会員を募集しています。賛助会員には特典として、ニュースレターなどの情報提供や特製2022カレンダーを贈呈いたします。

会費は個人1口2,000円、団体・法人1口5,000円です。何口でも、お申し込みいただけます。ご賛同いただける方のご支援をお願いいたします。



○和楽器を貸し出しています。和の音に触れてみませんか。

○民謡など語り、指導にあたる講師を派遣しています。

○民謡や鬼太鼓などで培われた民芸品などのアイテムを通信販売しています。



佐渡文化財団の活動、和楽器貸出、通信販売など詳しくはコチラから

